

2019年8月27日

報道関係各位

三菱地所株式会社
三菱地所レジデンス株式会社
三菱地所ホーム株式会社

国産材を使用した“部屋の中の小屋”「箱の間」を9月1日より販売開始 ～多様なライフスタイルに対応した柔軟な空間づくりを実現～

三菱地所株式会社と三菱地所レジデンス株式会社が企画した“部屋の中の小屋”「箱の間」(<https://www.mec-reform.com/hakonoma/>)を、三菱地所ホーム株式会社が9月1日より販売を開始します。

「箱の間」は都市と農山村を繋げる取り組み「空と土プロジェクト」(<https://soratsuchi.com/>)から誕生し、国産材を活用した“建築と家具の間”の商品です。居室内などの空間に設置することにより仕切ったり囲んだりし、間取りや空間に変化を持たせ、新しい居場所をつくることができます。2016年3月の発表から現在に至るまで、リノベーションマンションやオフィス、地域の交流拠点などに設置し、様々なニーズを確認。材の厚み等を見直し、このほどPLAN-α、PLAN-βの2パターンを販売します。

■ “部屋の中の小屋”「箱の間」の特徴

①設置するだけで、新しい「居場所」が生まれる

- ・部屋の中に置いても圧迫感のない小ささと、中で感じる広さを両立したサイズ。移動が容易で、仕切る、囲う等暮らしに合わせた柔軟な空間づくりが可能。
- ・様々なライフスタイルに対応するとともに、家族構成の変化など、ライフステージに合わせた間取り変更にも対応可能。
- ・住まいをはじめ、オフィスや商業施設等においても、新しい空間づくりの提案が可能。



▲箱の間 PLAN-α タイプ 使用イメージ
(椅子や小物は商品に含まれません)

②国産材の良さを「箱の間」に

- ・山梨県産のスギ材を活用。国産材は加工してからも生き生きと長持ちしやすいのが特徴で、トレーサビリティ※1も確保されています。国産材を活用することで、森林の循環サイクルを促進し、環境の保全に貢献します。

※1 生産・加工・製造・流通などの過程を明確に把握できること

- ・肌触りが良く、温度変化の少ない杉材を採用。触れたときに温もりを感じる木質空間の心地良さをお届けします。

③家具デザイナー 小泉 誠氏によるデザイン

- ・建築から箸置きまで生活に関わる全てのデザインを手掛ける小泉氏によるデザイン。
- ・住まいの中で移動できる居心地の良い空間を、家具と建築の間の「箱」で実現

三菱地所グループは、これまでもFSC認証※2木材をはじめ、CLT※3など国産木材の利用拡大に向けた取り組みを続けて参りましたが、今後も居心地の良い木質空間の提供をはじめ、ESGやSDGsなどをふまえた持続可能なビジネスの構築を進めて参ります。

※2 Forest Stewardship Council® (森林管理協議会) が運営する国際的な森林認証制度

※3 Cross Laminated Timber の略で板の層を各層で互いに直交するように積層接着した大判パネル

■「箱の間」概要

企 画：三菱地所株式会社、三菱地所レジデンス株式会社

協 力：コクヨ株式会社、NPO 法人フォレストリンク

販 売 窓 口：三菱地所ホーム株式会社 「三菱地所のリフォーム」事務局 0120-919-660

平日 10:00～18:00 まで（土・日・年末年始除く）

集 成 材 製 作：有限会社古屋製材所（山梨県山梨市）

家 具 加 工：有限会社ジオ・パラダイス（長野県小諸市）

販 売 タ イ プ：PLAN - α、PLAN - β

価 格：PLAN - α 670,000 円(税抜)、PLAN - β 620,000 円(税抜)

納 品 期 間：申込み後、約 2 か月で納品

販 売 エ リ ア：三菱地所ホームの施工エリア（首都圏、関西圏）に準ずる（その他エリアについては応相談）

商品展示場所：三菱地所ホーム

（PLAN - α）「みなとみらいリフォームショールーム」（横浜市西区みなとみらい 2-2-1）

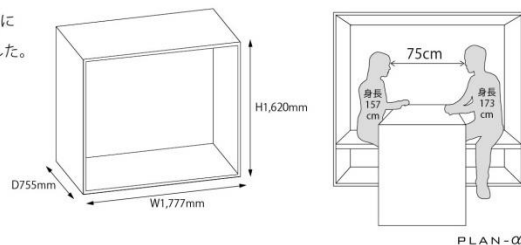
「オークラランドホームギャラリー」（東京都世田谷区桜 3-24-8）

■「箱の間」仕様



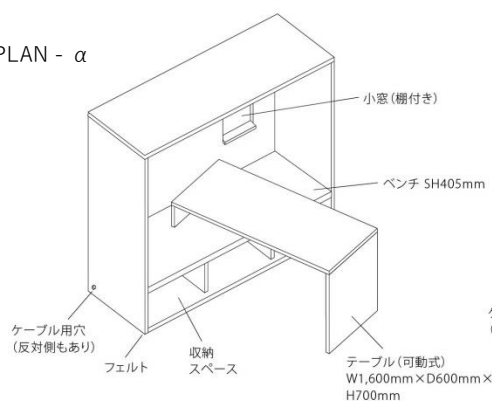
住まいの中で、使いやすいサイズを考えました。

大人が中に入っても心地よい広さを追求しながら、2人で向き合った際に
親密なコミュニケーションが図りやすい距離（45～75cm）を確保しました。
また部屋の中にうまくおさまり搬入・設置がしやすい小ささと、
中で感じる広さを両立した「箱の間」。
大きすぎず、小さすぎない、ちょうどいいサイズを見つけました。

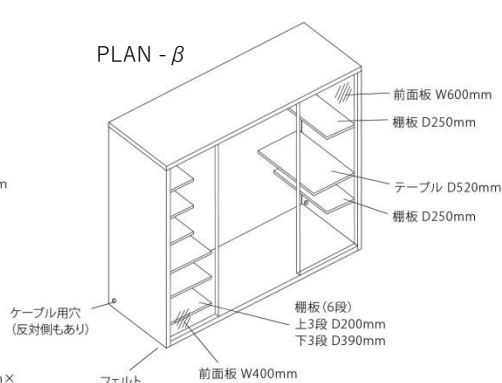


LINEUP

PLAN - α



PLAN - β



■「箱の間」使用例

「箱の間」自体で生まれる「居場所」。



お家の中に小部屋。
囲われた空間で秘密に。
秘密基地やカマクラ、別荘
のような、日常と少し違う感
覚のある非日常空間を。



落ち着いて集中できる小部屋。
お子様の勉強コーナーや
大人の書斎やホブスペース
として使えます。



2つの空間を生み出します。
大きな空間を「箱の間」で仕切れば、
一体感をもたせながらもそれぞれの
空間に別の世界観を作れます。



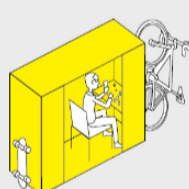
「箱の間」の入口を壁に向けると
一人で籠もれる空間ができる。
それはいわば、動かせる一人部屋。
瞑想したり、ぼったりしたり、
好きな居場所が生まれます。

「箱の間」は、住まいの中にいろんな「居場所」を生み出します。

「箱の間」自体で生まれる「居場所」



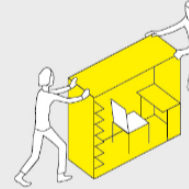
お家の中に小部屋。
狭くて囲われた
空間にドキドキ。



趣味の工具箱＆
工房に。

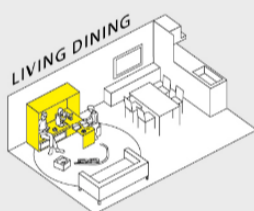


自分好みに
自由にアレンジ
できる空間。

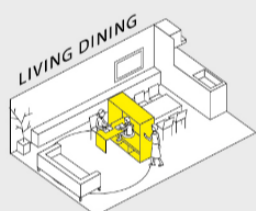


押して
移動可能。

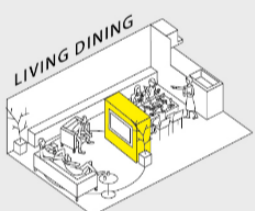
「箱の間」の置き方で生まれる「居場所」



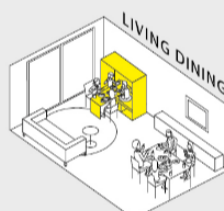
家族みんなが集まる場所。



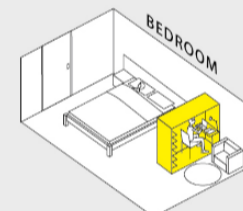
仕切るけど、そばにいる。



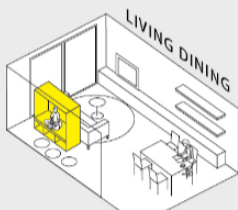
ゆるやかに仕切れる壁。



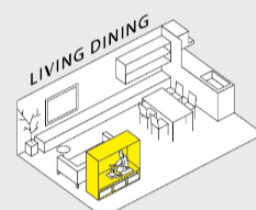
子供は子供で、大人は大人で。



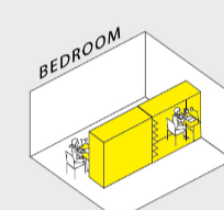
寝室に小さな書斎を。



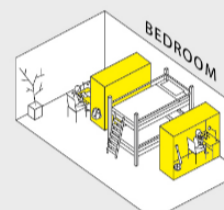
一人で籠もるのも大好き。



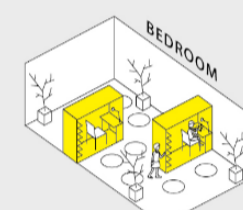
茶室って贅沢。でも欲しかった。



自分の居場所が欲しくなる年頃。



1つの部屋に2人の世界。



置き方で暮らしを遊べます。

■「箱の間」の活用事例

《リノベーションマンション》 ～仕切りのない空間を「箱の間」でゆるやかに仕切る～



(利用者の声)

「“箱の間” は子どもたちの部屋となっており、自分で描いた絵を貼ったり、杉の木の柔らかさを活かし、好きな場所に釘を打ってリュックをかけたり、カレンダーをかけた自分ワールドを楽しんでいます。マンションの壁は傷つけないと考えてしまいますが、“箱の間”なら思い思いに自由にできるところがお気に入りです。また、怒られた時は中に籠ることもあります。同志になっていて我が家ではいつでも誰でも受け入れてくれる大切な存在です。」

《石巻・川の上プロジェクト「耕人館」》 ～被災地の学び舎における自習空間～



(利用者の声)

「東日本大震災の最大の被災地である石巻市では多くの課題が散見されますが、そのうちの1つが子どもたちの学力の低下です。長い間の仮設住宅における暮らしや地域の環境変化は子供たちの学習環境の変化をもたらしました。そうした中で2018年に開館した地域の学び舎『耕人館』に“箱の間”が設置されています。耕人館では日々、多くの子供たちが自習していますが、その中で箱の間は学び舎の中の特別な自習空間となっています。箱の間を利用する高校生からは、『半個室の“箱の間”は、木の温もりを感じ、とても勉強に集中できます』との声があります。」



■石巻・川の上プロジェクト（グッドデザイン賞受賞）

<https://www.g-mark.org/award/describe/48300>

《三菱地所レジデンス 本社オフィス内》



社外の人でも入ることができるオフィスのスペースに「箱の間」を設置。「箱の間」で打合せをしたり、作業をしたり、お昼ご飯を食べたりと日々活用されています。また、通常の執務スペースのデスクよりも「箱の間」のテーブルが大きいので、図面を広げ集中したいときにも使われています。

以上